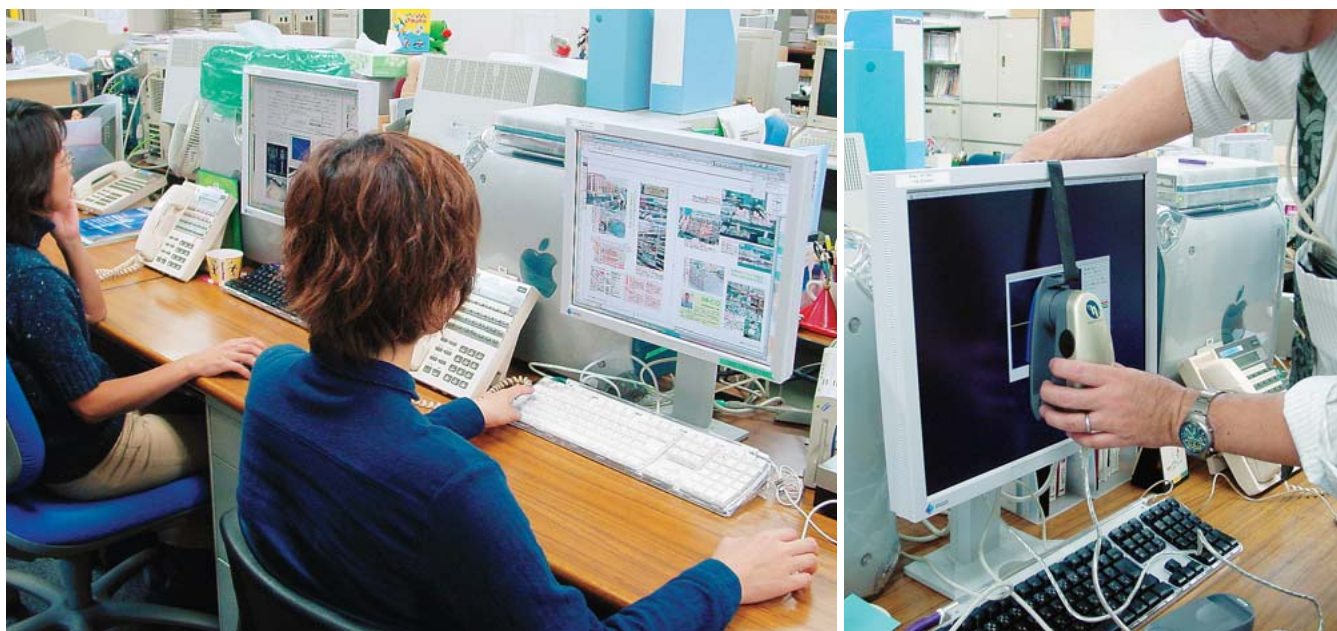


日経BP社様

雑誌制作の現場にLCDモニターを導入。DTPに必要な色再現性と安定性はもちろん、より良い作業環境が得られた。

40誌を超える雑誌を発行している日本最大級の出版社日経BP社では、入稿の効率化、コスト削減の視点から色校正の廃止に積極的に取り組んでおり、CTP印刷の業務フローもいち早く導入した。CTP印刷では、DTPに使用されるモニターに一段と高い色表示性能と安定性が要求される。その中で同社が選出したのは、EIZOのキャリブレーション対応液晶モニターColorEdgeであった。これにより、満足できる表示画質が得られたのはもちろん、作業環境の改善にも貢献したと評価している。



1995年頃から同社では入稿作業の効率化、コスト削減の考えから色校正の廃止を検討しており、1997年頃より色校正の廃止に本格的に取り組み始めた。そして1999年には色校正を原則廃止。2000年頃からはICCプロファイルを使ったCTP印刷の作業フローをいち早く導入した。このような流れの中で、モニターに求められる表示性能はより一層高くなっていった。

DTPに使用できるLCDモニターを待っていた

CTP印刷を始めた当時、同社はEIZOのCRTとキャリブレーターを導入し、モニターで色をシミュレートできる環

境を整備した。これにより安定した色を得られ、雑誌の品質の向上に繋がったと制作部部長の山村氏は評価する。

「しかし同時にこの頃から既に『次はLCDを』と決めていました。」（山村氏）その頃使用していたCRTは21インチと大きく、机の上がモニターだけで埋まってしまうというスペース性の問題があった。またISO14001を取得していたことにより、地球環境保全の視点からもできるだけ早くCRTをLCDに置き換える必要があった。

しかし、DTPに使用するのに適したLCD、つまり正しい色再現ができ、カラーマネジメントにも対応している製品は当時まだ無く、「EIZOが開発してくれることを期待して待っていまし

た」と山村氏。そして2003年、同社にEIZOのColorEdgeが導入された。



CRTでは作業スペースを確保して設置するために、向い合う机同士は間を空けて配置されている。

ColorEdgeは色が安定している

ColorEdgeについて山村氏は「DTPにはまず、色が正しく出ることが求められます。ColorEdgeは視野角が広く、色が非常に正確に表示されますね。特に『黒が締まる』とデザイナーにも好評です」と評価する。さらに「CRTよりも製品自体の値段は高いですが、消費電力の少なさをはじめとするメリットを考えるとコストパフォーマンスが高いですね」と山村氏。



キャリブレーションが簡単で業務負担も軽減

制作管理本部部長の味岡氏は、「ColorEdgeのキャリブレーションでは細かい項目の設定が不要で、CRTに比べて作業が簡単です。時間も短くなり、キャリブレーションによる業務負担が軽減されました」と話す。さら

に、DTPに使用するモニターに必要なもう一つの要素である安定性についてもColorEdgeを評価する。「キャリブレーションでかなり精度の高い色表現ができ、色のブレが少ないので表示が信用できます。色が安定しているので、CRTに比べてキャリブレーションする頻度が少なくなりました。」（味岡氏）

オフィス環境の改善などのメリットも

導入してみると、表示性能以外のメリットも多かった。CRTからLCDへの置き換えにより机の上の作業スペースが大幅に広くなり、従来は別の机に置いていたパソコンを、モニターと同じ机の上に置くこともできるようになった。また、一番顕著だったのは、室内温度。「導入するまで深く意識していませんでしたが、室内の温度がこんなにも変化するかと実感し、驚きました」と山村氏。さらに味岡氏は、ケーブルの接続についてもLCDのメリットを挙げる。「キャリブレーションのためにモニターにUSBケーブルを繋ぐ際、画面部分を回転させてコネクタ接続部分が横にくるように動かせば、楽に接続ができます。こういった部分も、LCDはCRTに比べてずいぶん扱いやすいですよ。」（味岡氏）

今後も徐々にColorEdgeへのリプレイスを進めていきたいという山村氏。現在、同社の雑誌の約3割にCTP印刷が導入されているが、来年には4割から5割

に増やし、最終的には全面的にCTP印刷にしていきたいと考えている。「そのためにもますます色管理の精度、安定性が大切になってくると考えています。」（山村氏）



同じ机に置かれたCRT(手前)とLCD(奥)。LCDの背面にはPCが設置されているにも関わらずまだこれだけのスペース差がある。

■日経BP社

技術と経営の先端情報を雑誌・書籍、インターネット、展示会など多様なメディアを駆使して提供する日本最大級の出版社(コンテンツ・プロバイダー)。雑誌、書籍・ムックなどの出版を中核に、インターネット、展示会、調査・コンサルティング、教育・セミナーなどその事業は多岐にわたる。日経BP社が提供する専門情報は、経営、パソコン、コンピューター、通信、デジタル家電、機械、建築、医療・健康、環境、サービス、エンターテインメント、ライフスタイルなど広範な分野に及び、発行雑誌は40誌を超える。その読者総数は約245万人、年間の雑誌発行部数は約5,000万冊に達する。

株式会社ナナオ 〒924-8566 石川県松任市下柏野町153番地

営業1部 (03)5715-2011 名古屋 (052)232-7701
大阪 (06)4807-7707 福岡 (092)715-7706
北陸 (076)277-6790 営業2部 (076)277-3922

www.eizo.co.jp

EIZOは(株)ナナオの世界統一ブランドです。